



株式会社クレハ環境

環境報告書

2024 Environmental Report 2024



近年の世界情勢は、想像を絶するスピードで変化し、原燃料価格上昇、物価高騰など、私達の企業活動や生活に重大な影響を及ぼしています。収束を見ない大国間の覇権争い、ウクライナ情勢に加え、新たな中東紛争、過去に類を見ない甚大な自然災害の多発等々、ネガティブな事象は後を絶ちません。また、当社グループを取巻く事業環境は、産業廃棄物搬入量の減少、燃料・資材価格の高騰、競合他社との競争激化、人財確保難など、新たな課題への取り組みが必要な状況にあります。

このような状況下、当社は『安全はすべてに優先する』を根幹としつつ、新中長期経営計画において掲げたビジョン『私たちは独自技術を駆使した環境・リサイクル事業を通じて、資源循環型社会の構築に貢献します』と、2030年の『ありたい姿』の実現に向けて、「環境負荷低減」「減量化」「無害化」「再生・資源化」「カーボンニュートラル」への取り組みを鋭意推進しております。

SDGsやカーボンニュートラルに関して世界的な取り組みが推進される中、当社は、産業廃棄物処理事業、環境エンジニアリング事業、環境修復事業に加え、グループ会社であるひめゆり総業株式会社(最終処分場)の事業を通じ、持続可能な循環型社会の構築に寄与するとともに、持続的企業価値確保に向けて、より一層のCSR経営を推進し、お客様や地域の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様から信頼され、またその信頼に応え続ける会社であるよう努力を続けてまいります。

今後とも格別のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **並川 昌弘**

クレハ環境の環境経営	
事業の概要	2
環境対策投資	3
マネジメントシステム運用状況	4
環境に関する規制等の順守状況	5
廃棄物処理事業	
インプット・アウトプットの状況	6
ウェステックいわき	8
ウェステックかながわ	10
各種排出物の測定・分析値等	12
廃棄物処理を通じた社会貢献	14
サーマルリカバリー	15
環境エンジニアリング事業	
VOC排ガス処理設備「GASTAK」	16
水処理設備 浄水・水質浄化	18
トピックス	
安全文化の構築	19
さまざまな取り組み	20
ひめゆり総業の取り組み	23
会社概要	
会社概要・クレハグループレスポンシブル・ケア方針	24
沿革・お問い合わせ	25

企業理念

1. 人と社会そして地球環境との調和を大切にする会社をめざして、たゆまぬ努力を続けます。
2. 安全なサービスと商品を提供し、住みよい豊かな社会づくりに貢献します。
3. 地域に根ざした会社として、地域と共に発展し続けます。
4. 法令および社会的規範を遵守し、オープンな企業活動を通じて、社会から信頼される誠実な企業市民をめざします。
5. 社員一人一人が互いの人格、個性を尊重し、創造力とチームワークを最大限に高め、魅力あふれる企業風土をつくります。
6. 時代の流れを先取りした技術の研究と開発に、情熱を持って取り組みます。

編集方針

本報告書は、2023年度の当社のレスポンシブル・ケア(RC)活動をはじめとする様々な取り組みについてご紹介しています。

■ 参考にしたガイドライン

- 『環境報告書ガイドライン2012年度版』
- 『環境報告書の記載事項等の手引き(第3版)』…以上、環境省

■ 対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日
一部に2024年度内及び今後の予定を含みます。

■ 対象範囲

全部署

■ 免責事項

本報告書には、発行時点における計画または将来予測が含まれています。この将来予測については諸条件の変化により異なったものとなる可能性があります。また、記載の表やグラフの数値は算出方法の見直し等により、一部過年度データを修正している項目及び端数処理により合計に誤差が発生している項目があります。皆様にはご了解いただきますようお願いいたします。

当社のSDGs※への取り組みも紹介します。



※SDGs(持続可能な開発目標)とは

2015年9月に国連本部において採択された2030年まで続く国際目標です。世界経済危機・自然災害・環境・難民・貧困などのグローバルな問題の対処に向けた17の目標と169項目のターゲットに全世界が取り組むことによって「誰も取り残されない」世界を実現しようというものです。

事業の概要

主要な事業

①産業廃棄物の収集運搬・処分

福島県いわき市（ウェステックいわき）、神奈川県川崎市（ウェステックかながわ）に中間処理施設を有しています。当社グループ会社のひめゆり総業株式会社の最終処分場と合わせ、処理の難しい廃棄物でもワンストップでの処理が可能です。

多様化する産業廃棄物を安全適正に処理することを第一に考え、処理技術の研究開発や学会発表も行っています。

②環境修復事業

これまで培った独自の技術と多くの実績、ノウハウを基に環境の浄化回復を行っています。汚染状況の調査から浄化対策の設計及び施工、浄化後のモニタリングまで一貫体制で行っています。

環境修復の技術は、震災や豪雨被害により発生した災害廃棄物の迅速かつ適正な処理にも活かされ、地域の災害復興に貢献しています。

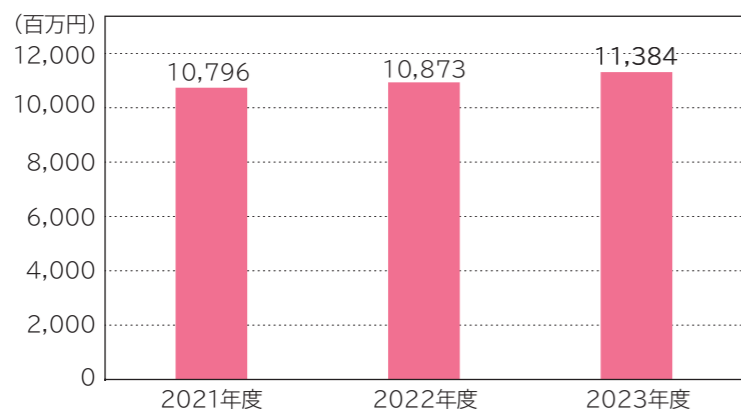
③環境エンジニアリング事業

大気環境や水環境に係る環境対策設備の製造・販売を行っています。排ガス中に含まれる有機溶剤の回収や有害・悪臭物質の除去を行う排ガス処理設備のほか、浄水場における適正な水質管理の実現や水質改善による水道施設の腐食防止を目的とした水処理設備があります。

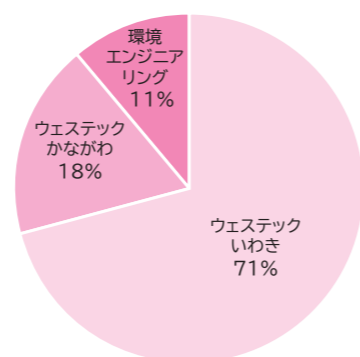
④発電事業

ウェステックかながわでは、廃棄物を焼却した熱で発電（サーマルリカバリー）を行っています。

売上高実績推移



部門別売上構成比 (2023年度)



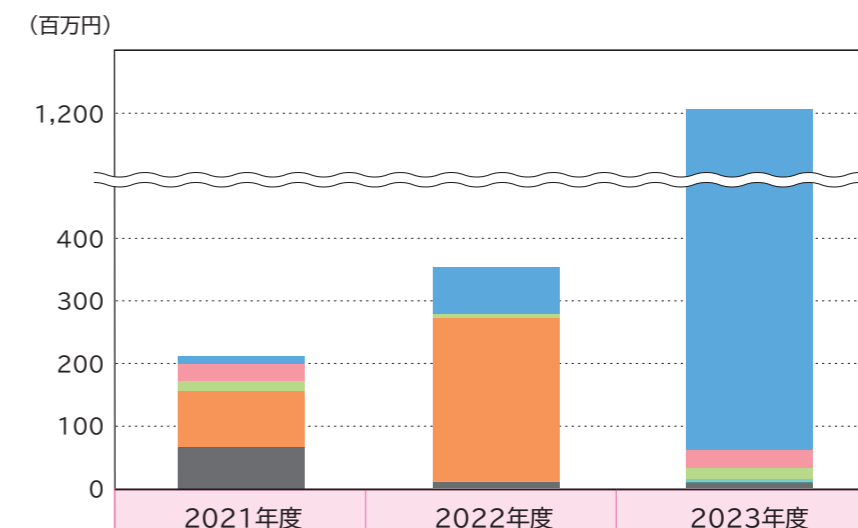
当社は、企業理念のもと、お客様や地域社会をはじめとするステークホルダーの皆様、そして地球環境保全のために、事業を通して環境負荷低減に取り組んでまいります。

経営企画本部 経営企画部 経営企画課長
大峯 和也

環境対策投資

2023年度の環境対策として、1,205百万円を超える設備投資を行いました。

①「公害対策(水質)」として、ウェステックいわきの脱水機増設のほか、排水処理性能向上のために、1,143百万円を超える投資を行いました。また②、③「公害対策(大気、騒音、振動、悪臭)」としても約47百万円の投資を行い、環境対策を講じました。



	2021年度	2022年度	2023年度
①公害対策(水質)	12.98	75.16	1,143.97
②公害対策(大気)	26.29	0.32	29.48
③公害対策(騒音、振動、悪臭)	16.17	7.86	17.85
④省エネ・CO ₂ 排出削減	90.94	261.56	0.00
⑤産業廃棄物・リサイクル対策	0.00	0.86	5.92
⑥土壌・地下水汚染対策	0.00	0.00	0.00
⑦その他	64.34	9.35	7.95
計	210.72	355.11	1,205.17

マネジメントシステム運用状況

マネジメントシステム基本方針

● 考え方／目標／目的

法令・規制・自主基準を順守し、マネジメントシステムによる品質・環境・労働安全衛生に関わる諸活動を通じ、地域および事業を取り巻くステークホルダーの信頼を深め、企業価値の向上に努める。

● 活動方針

- 提供する製品・サービスの品質を向上させ、顧客満足度アップを目指す。
- 環境事業の経験を活かし、環境保護に努める。
- 安全衛生管理方針に基づき、安心安全で快適な職場づくりを行う。
特に墜落・転落、薬傷、転倒、重機災害の防止に努める。

2022年5月12日改定

環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用状況

環境活動に関する 計画→実行→検証→改善 のプロセスを適切に管理することを目的として、環境管理委員会を毎月開催しました。

ISO14001の環境目標と結果

環境目標	目標値	結果	説明
〈総務部〉 社内及び社外(主に会社周辺)の環境美化・環境保護に努める	地域美化活動の実施 (年8回以上)	達成	8回実施し、目標を達成しました。
〈営業本部〉 廃棄物社外漏洩の発生件数ゼロ	0件	達成	廃棄物社外漏洩の発生件数ゼロを達成しました。
〈ウェステックいわき〉 環境苦情件数ゼロ	0件	達成	環境苦情件数ゼロを達成しました。
〈ウェステックかながわ〉 環境苦情件数ゼロ	0件	達成	環境苦情件数ゼロを達成しました。
〈環境技術部〉 外部工事における環境事故ゼロ	0件	達成	環境事故ゼロを達成しました。
〈環境営業部〉 CO ₂ 排出削減及び有効利用への寄与	55 t／年	達成	GASTAK [※] 1基及び炭酸ガス注入設備 1基の販売により、CO ₂ の排出削減量または有効利用量として55t／年以上に寄与しました。

※VOC排ガス処理設備

環境に関する規制等の順守状況

当社はマネジメントシステム基本方針に「法令・規制・自主基準の順守」を掲げています。法令等の順守のために、国際規格ISO14001を活用し、法令・規制等の登録、順守状況を評価しています。評価の結果、2023年度も順守状態を維持していることを確認しています。

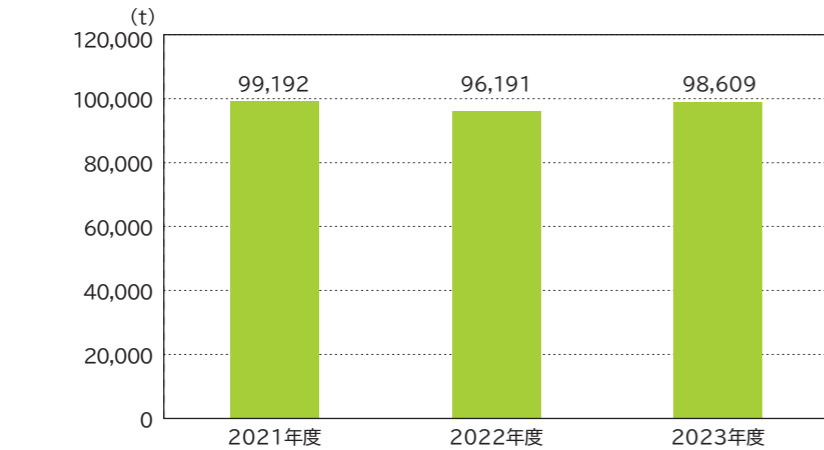
主な環境に関する法令・規制一覧

No	法律等の名称	内容等
1	大気汚染防止法 水質汚濁防止法 ダイオキシン類対策特別措置法 化学物質排出把握管理促進法 福島県、神奈川県、いわき市、川崎市環境関連条例 公害防止協定(いわき市)	大気汚染、水質汚濁の防止対策関連
		大気汚染、水質汚濁に係る測定、調査、届出関連
		悪臭の防止対策関連
		悪臭物質、産業廃棄物に係る測定、調査、届出関連
		振動騒音等の防止対策関連
2	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物処理施設の維持管理基準関連
		産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の保管基準関連
		産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬業許可基準関連
		産業廃棄物管理票交付等状況報告関連 産業廃棄物処理施設の行政による定期検査関連
3	金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令	燃え殻、脱水汚泥に係る埋立処分に係る判定基準関連
4	地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガス算定排出量関連
5	消防法	危険物貯蔵所等の行政立入検査関連
6	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律	特定事業者のエネルギー使用量の定期報告義務関連
7	水銀廃棄物のガイドライン	水銀廃棄物の環境上適正な処理関連
8	低濃度PCB廃棄物収集・運搬ガイドライン、低濃度PCBの処理に関するガイドライン	低濃度PCB廃棄物収集運搬、処理の基準関連
9	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	フロン類の破壊量報告関連

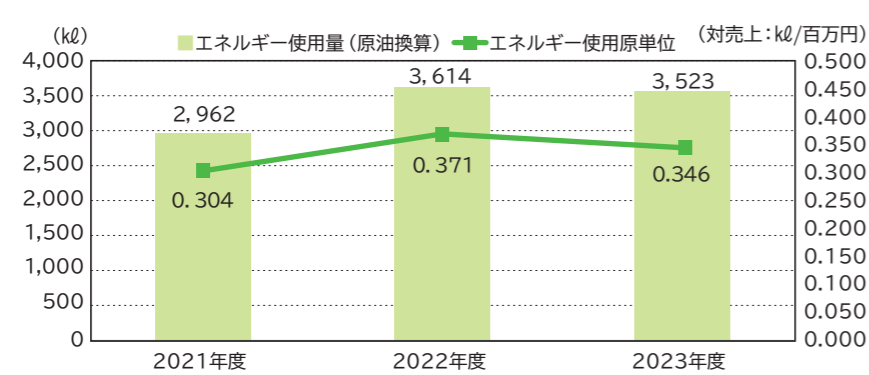
インプット・アウトプットの状況

インプット

廃棄物受入量

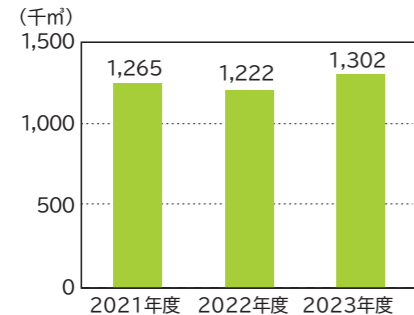


エネルギー使用量 (原油換算)

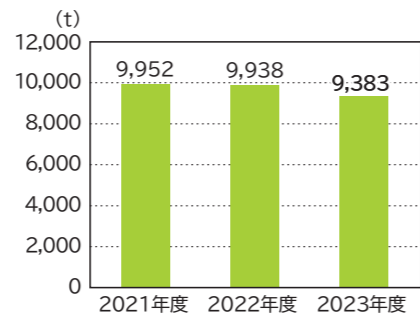


省エネ法改正前後における評価の継続性を担保するため、原単位算出に当たり旧省エネ法に基づく数値で記載しています。なお改正省エネ法に基づく数値では非化石エネルギーも報告対象に加わり、原油換算で25,990kℓとなります。

水資源投入量



原材料の使用量



廃棄物処理



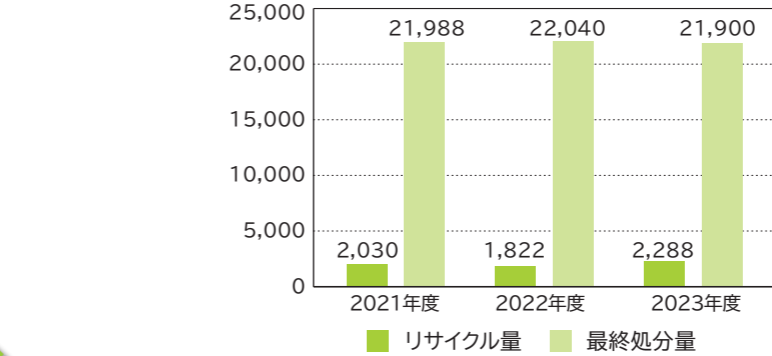
ウエストックいわき



ウエストックかながわ

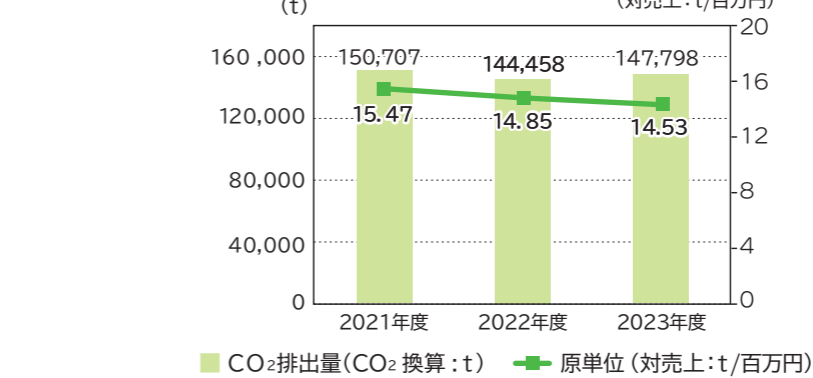
アウトプット

廃棄物排出量



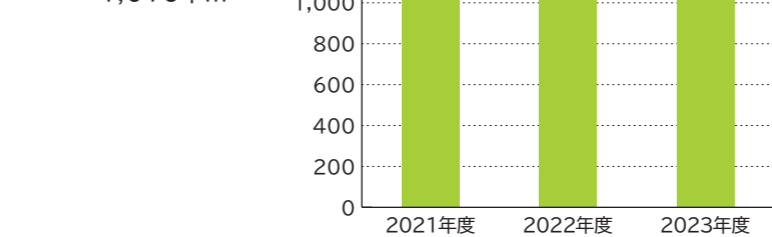
中間処理後の廃棄物排出量は廃棄物受入量に対し24.5%まで減量しました。
また廃棄物排出量のうち9.5%相当をリサイクル処分とし、資源循環に貢献しました。

温室効果ガス排出量 (CO₂換算)



省エネ法改正・SHK制度変更前後における評価の継続性を担保するため、原単位算出に当たり旧省エネ法・SHK制度に基づく数値で記載しています。なおSHK制度変更により廃棄物に係る排出量の扱いに変更があり、温室効果ガス排出量は51,888tとなります。

排水量



ウエストックかながわではクローズドシステム(排水を外部に出さず再利用するシステム)を採用しているため、排水量はウエストックいわき分のみの計上となります。



ウエストックかながわの廃棄物発電では余剰電力を外部供給しており、供給量はウエストックいわきの購入電力量に匹敵し、事業全体で購入電力ゼロに近い運営をしております。いわき・かながわ2か所の拠点で、それぞれの施設の特性を生かした廃棄物処理により、環境負荷低減やサステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

取締役専務執行役員 ウエストック事業部 事業部長 堀口 司

ウェステックいわき

ウェステックいわきの7号焼却炉、8号焼却炉では、塩素・シリコン類を含む廃油、汚泥、廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ及び医療系廃棄物を中心に各種廃棄物を焼却処理しています。



7号焼却炉



8号焼却炉



処理課は焼却炉を主とする処理施設全体の運転維持管理を担当しており、安全で衛生的な処理を通し、環境負荷の低減に努めております。また、働く仲間の安全を守り抜き、施設を安定稼働させることに全力で取り組んでおります。

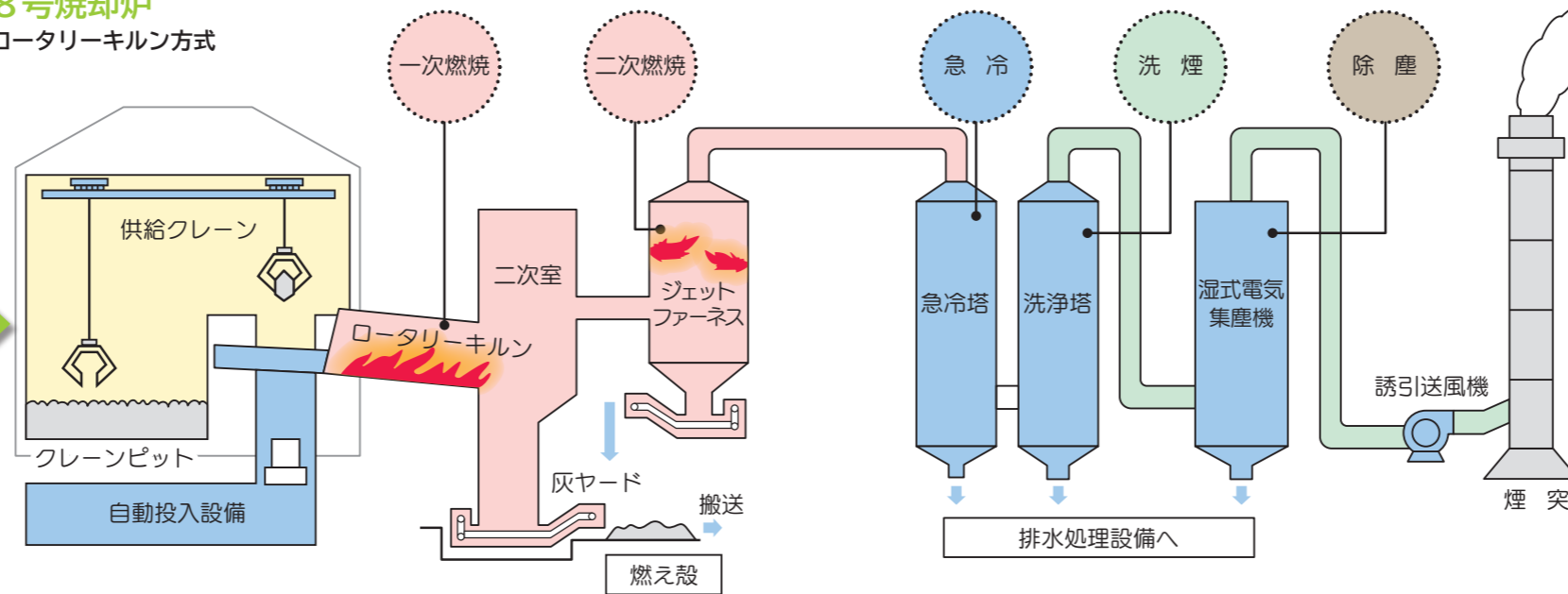
ウェステック事業部 いわき処理部 処理課長
阿部 美明

インプット

廃棄物受入量 58,246 t
焼却処理対象物
→焼却処理施設へ
その他
→その他の処理施設へ

エネルギー使用量*
(原油換算) 3,103kℓ
水資源投入量 1,250千㎡
(排ガス処理に使用)
原材料の使用量 7,381 t

7号焼却炉 8号焼却炉 ロータリーキルン方式



アウトプット

廃棄物排出量 13,918 t
リサイクル量 2,157 t
最終処分量 11,761 t

温室効果ガス排出量*
(CO₂換算) 88,280 t
排水量 1,076千㎡

※省エネ法改正後 17,593kℓ

※SHK制度変更後 51,478 t

7号焼却炉

汚泥の焼却施設 182㎡/日
廃油の焼却施設 110㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設 104t/日
シアン化合物の分解施設 202㎡/日
産業廃棄物の焼却施設 238t/日

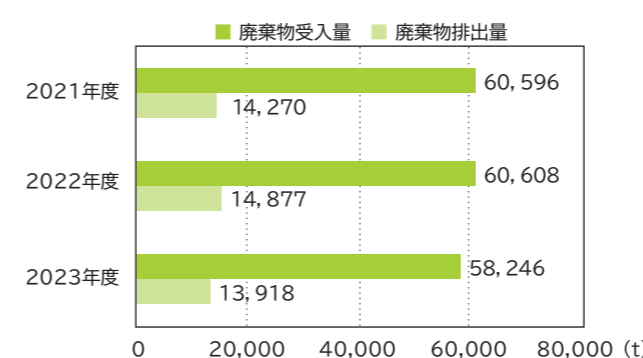
8号焼却炉

汚泥の焼却施設 182㎡/日
廃油の焼却施設 118㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設 104t/日
シアン化合物の分解施設 266㎡/日
産業廃棄物の焼却施設 238t/日

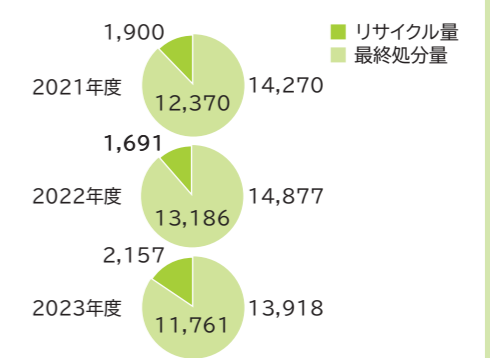


これまで1基だった脱水機を2基に増設し、安定操業に寄与しました
(写真：増設した脱水機建屋)

廃棄物受入量と廃棄物排出量



廃棄物排出量の内訳(t)



ウエステックかながわ

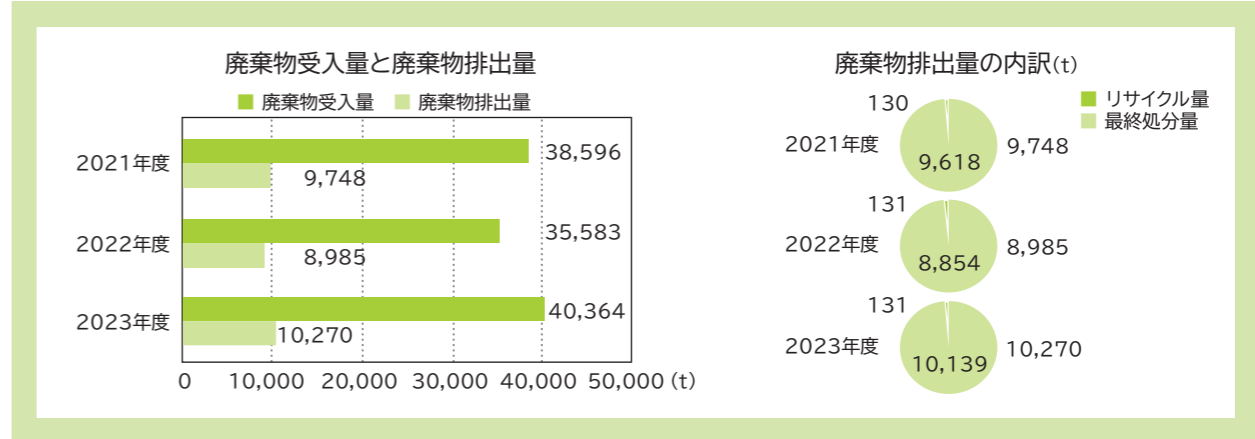
ウエステックかながわでは、産業廃棄物を焼却処理するとともに、排熱を有効に利用して発電しています。

熱量や性状が多様な廃棄物からより多くの電力を供給できるように、運転ノウハウを駆使して、化石燃料の利用が少しでも削減されるよう努めています。



設備課では、建物から焼却炉まで、ありとあらゆる設備の問題に迅速に対応するために、全てのメンバーがマルチなスキルを身に付け、高い品質と安全作業を第一に日々の業務に取り組んでいます。

ウエステック事業部 かながわ処理部
設備課 副課長 木上 裕



インプット

- 廃棄物受入量 40,364 t
- 焼却処理対象物 → 焼却処理施設へ
- その他 → その他の処理施設へ
- エネルギー使用量* (原油換算) 420kℓ
- 水資源投入量 52千㎡
- 原材料の使用量 2,002 t

※省エネ法改正後 8,397kℓ

1号焼却炉・2号焼却炉計

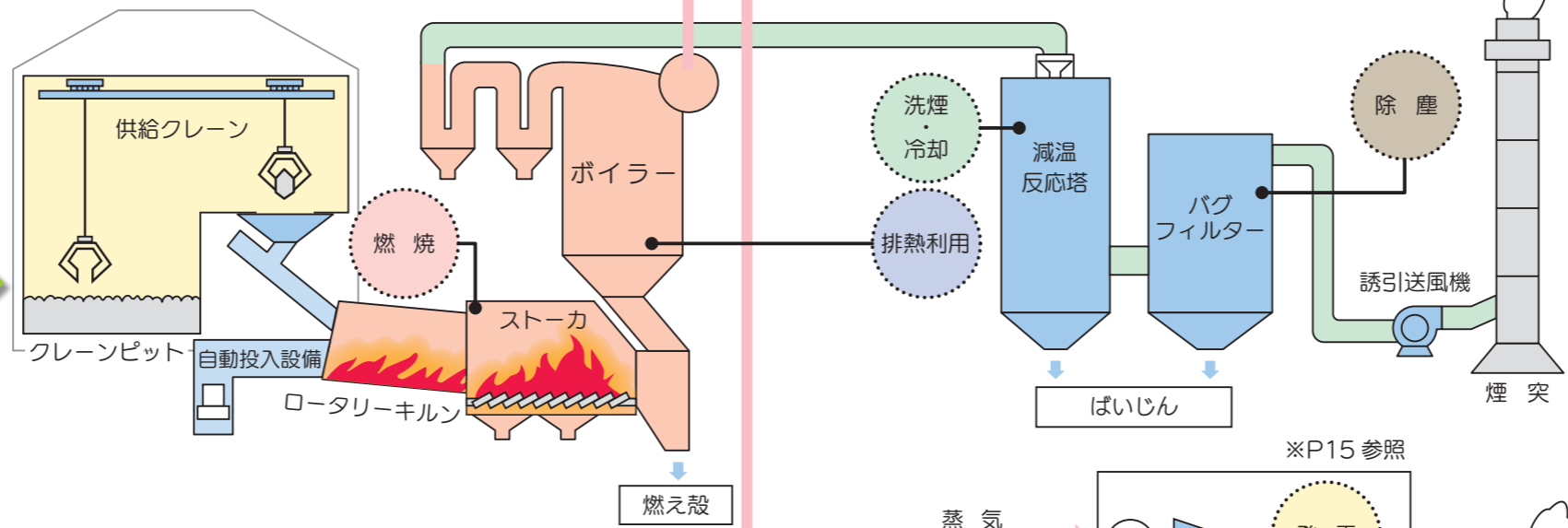
- 混合焼却 140t/日
- 汚泥の焼却施設 112㎡/日
- 廃油の焼却施設 150㎡/日
- 廃プラスチック類の焼却施設 80t/日
- その他産業廃棄物の焼却施設 230t/日

3号焼却炉

- 混合焼却 70t/日
- 汚泥の焼却施設 48㎡/日
- 廃油の焼却施設 75㎡/日
- 廃プラスチック類の焼却施設 40t/日
- その他産業廃棄物の焼却施設 115t/日

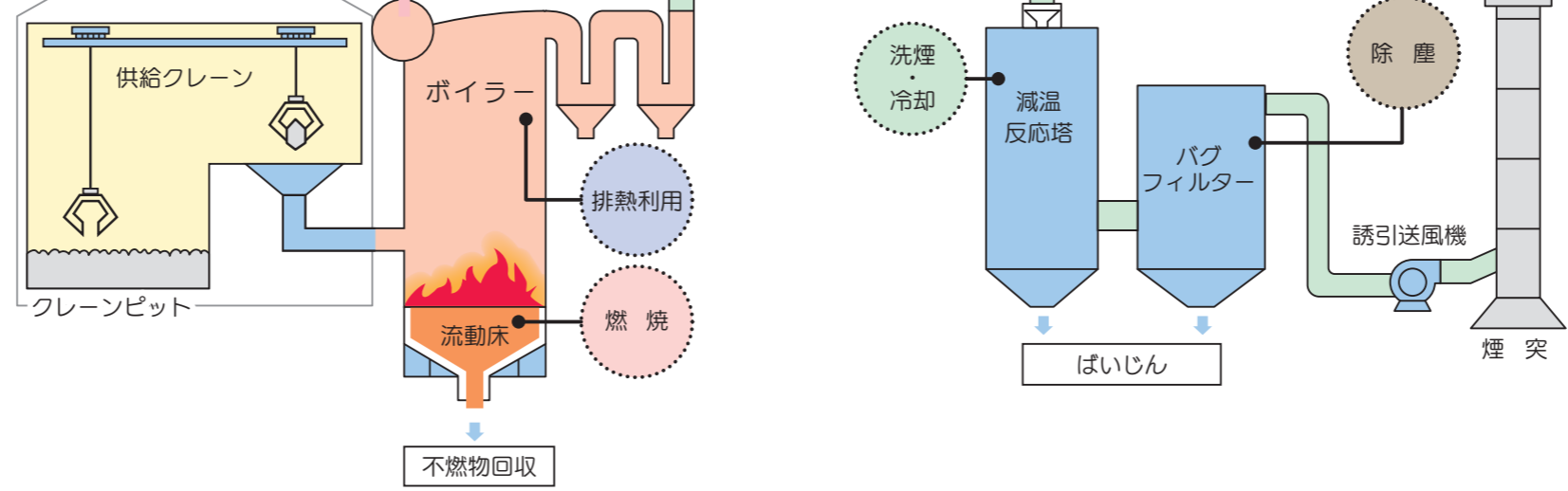
1号焼却炉 2号焼却炉

ロータリーキルンストーカ方式



3号焼却炉

流動床方式



アウトプット

- 廃棄物排出量 10,270 t
- リサイクル量 131 t
- 最終処分量 10,139 t
- 温室効果ガス排出量*1 (CO₂換算) 59,518 t
- 排水量*2 0㎡

※1 SHK制度変更後 410 t
 ※2 ウエステックかながわではクローズドシステム(排水を外に出さず再利用するシステム)を採用しています。



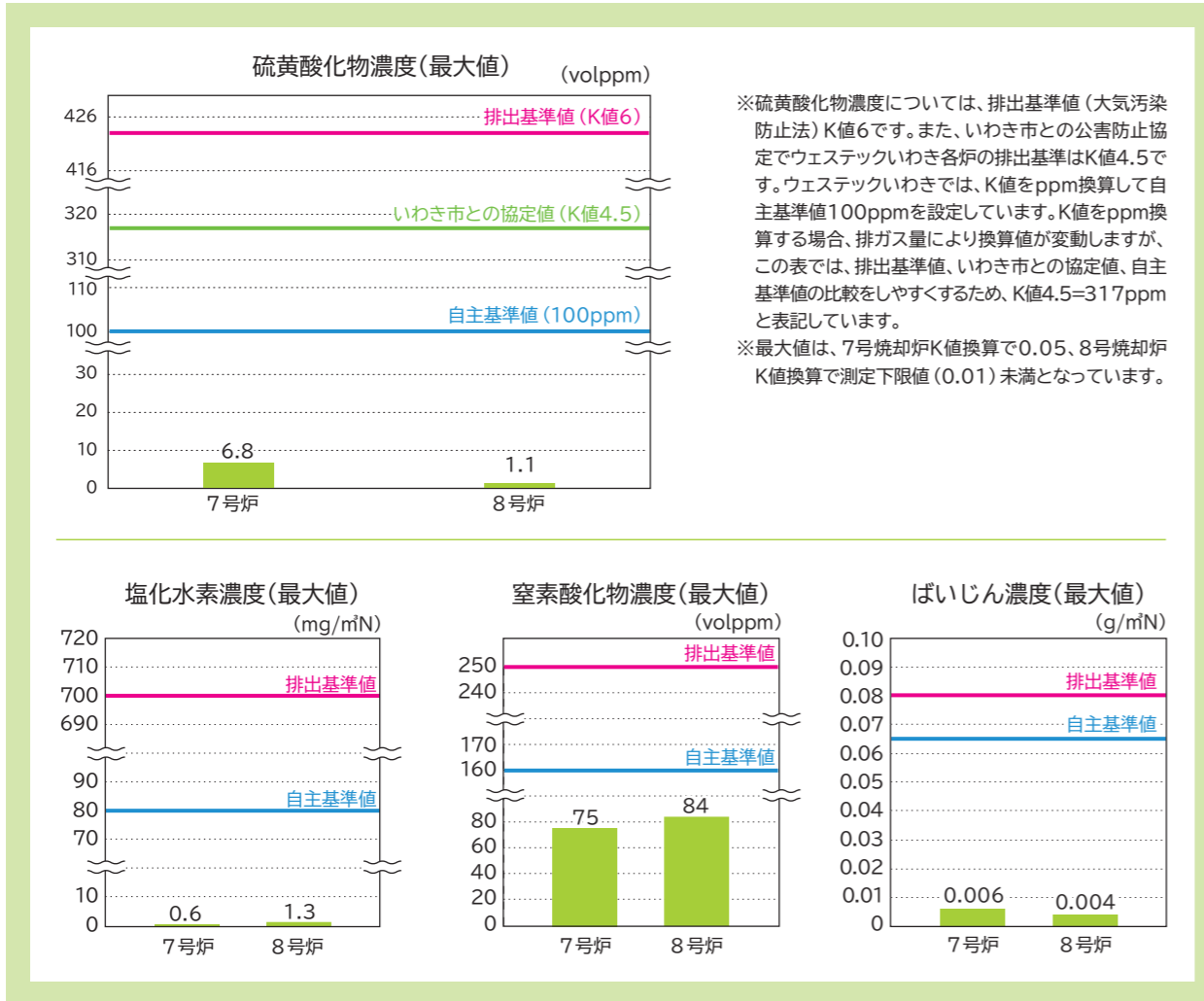
ウエステックかながわに隣接した廃棄物の積替え・保管施設です。小型車両で搬入された廃棄物を当社大型車両でウエステックいわきに搬送し、処分します。運搬効率に配慮し、施設を運用しています。



各種排出物の測定・分析値等

2023年度の焼却炉排煙の硫黄酸化物濃度、塩化水素濃度、窒素酸化物濃度、ばいじん濃度は、廃棄物処理施設の適正な維持管理により全て自主基準値以下で法令等の排出基準を順守しています。
 ※排出基準値は、大気汚染防止法の排出基準値を記載しています。

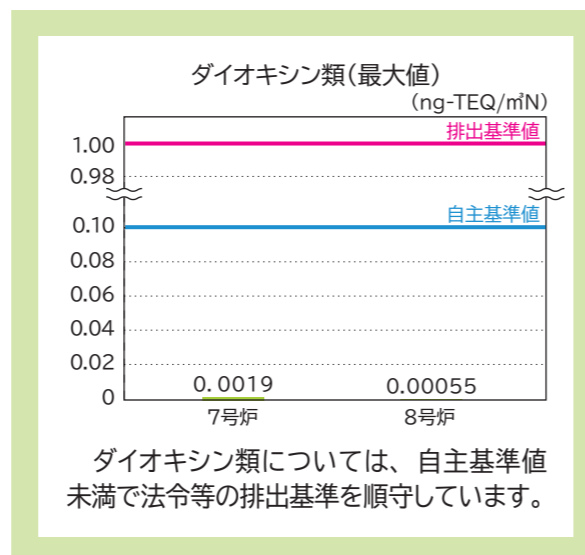
ウェステックいわき



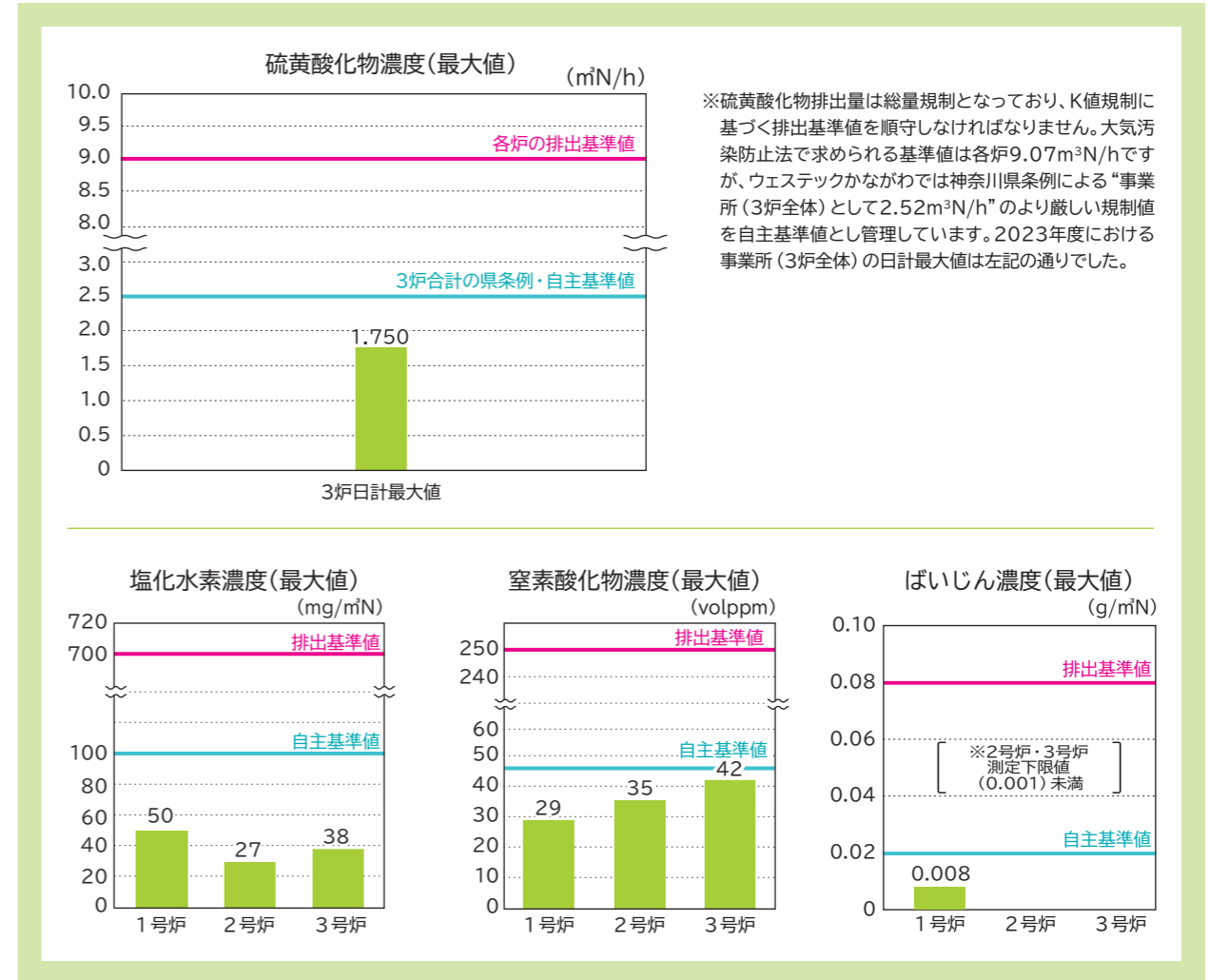
化学物質の排出、移動量

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 該当品目は31種類あり適切に届出を行っています。ここでは大気汚染防止法附則の優先取り組み物質の中からダイオキシン類と指定物質のベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンについて記載しています。

ダイオキシン類移動量 280mg-TEQ/年	ベンゼン排出量 5.4kg/年
トリクロロエチレン排出量 5.4kg/年	テトラクロロエチレン排出量 5.4kg/年



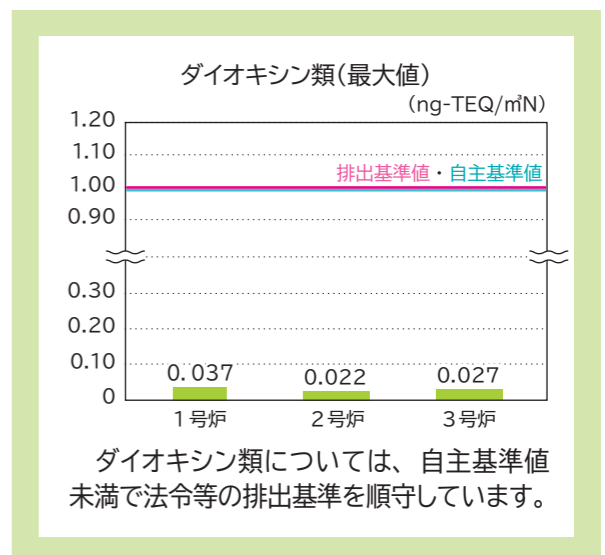
ウェステックかながわ



化学物質の排出、移動量

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 該当品目は1種類あり適切に届出を行っています。

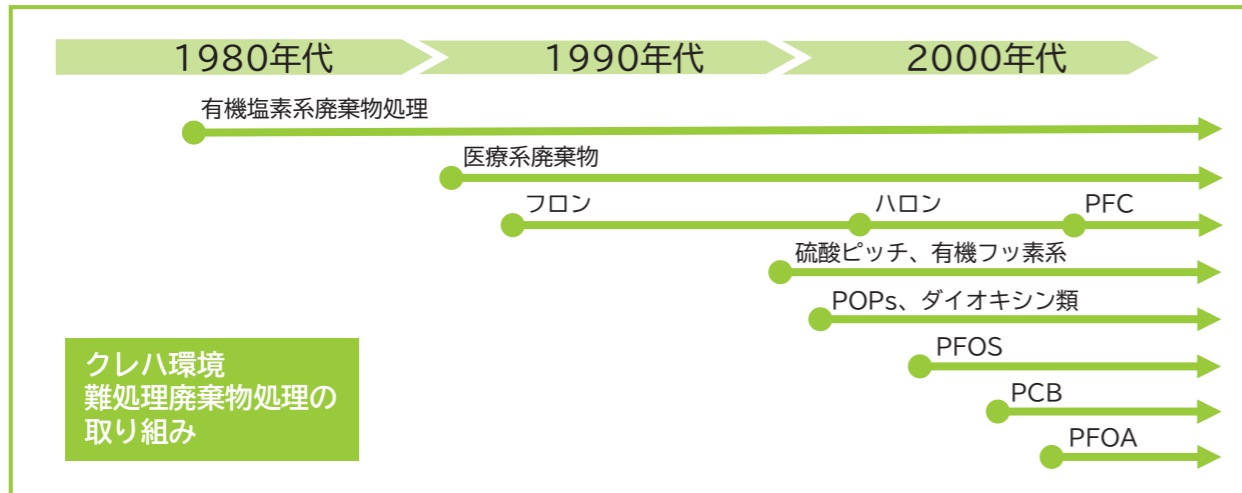
ダイオキシン類移動量
6,210mg-TEQ/年



廃棄物処理を通じた社会貢献

難処理廃棄物の処理

当社はこれまで、培ってきた『技術力』を活かしてリサイクルの困難な難処理廃棄物の無害化処理に力を入れて取り組んできました。有機塩素系廃棄物から始まり、フロンやダイオキシン類、近年では低濃度PCBやPFOS、PFOAなど国内外で難分解性が問題視される化学物質の無害化処理に貢献しています。



環境修復事業

難処理廃棄物処理の技術力や、多種多様な廃棄物に対応できるノウハウを活かして不適正保管された廃棄物の処理や、地震や大雨などによる災害廃棄物の処理など環境修復事業にも取り組んでいます。これからも廃棄物処理事業を通して、地域社会、そして地球環境の保全に貢献してまいります。

◆災害廃棄物の処理

2019年10月に発生した台風19号は東日本に記録的な大雨をもたらし、いわき市では浸水被害等により約71,000 tの災害廃棄物が発生しました。当社は仮置き場の管理や廃棄物の数量管理などのマネジメント業務で災害廃棄物の処理に貢献しました。処理は2021年3月に完了しました。



ピーク時の仮置き場の様子(2019年12月)



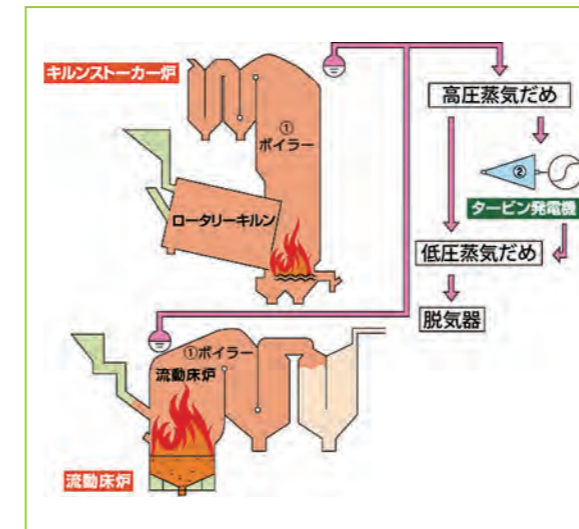
元の姿に戻りました(2021年3月)

サーマルリカバリー

ウェステックかながわにおける廃棄物発電(サーマルリカバリー)

ウェステックかながわは、焼却炉3基の排熱を回収するサーマルリカバリーにより最大4,800kWhの発電能力があります。

発電した電力はウェステックかながわで使用し、余剰電力は売電しています。余剰エネルギーを電力の形で社会に還元し、環境負荷低減に貢献しています。



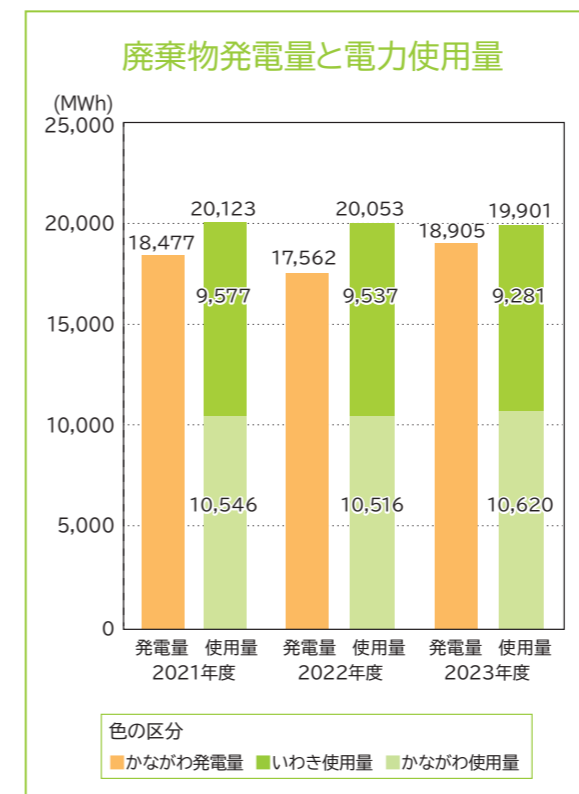
①ボイラー

燃焼ガスを冷却し、発生蒸気を場内設備及び発電設備に供給します。



②タービン発電機

ボイラーにて発生させた蒸気により発電を行います。発電した電力は、プラント内で使用し、余剰電力は売電します。



VOC排ガス処理設備「GASTAK」



環境営業部では、独自のVOC排ガス処理設備や水処理設備により、大気汚染の防止や上水の水質改善を図ることで、皆様の生活の安定や持続可能な社会の構築に貢献できるよう、設備の普及と共に新規用途開発や情報発信に努めております。

環境エンジニアリング事業部 環境営業部 環境プラント営業課
小澤 啓祐

有機溶剤の回収、有害・悪臭物質の除去

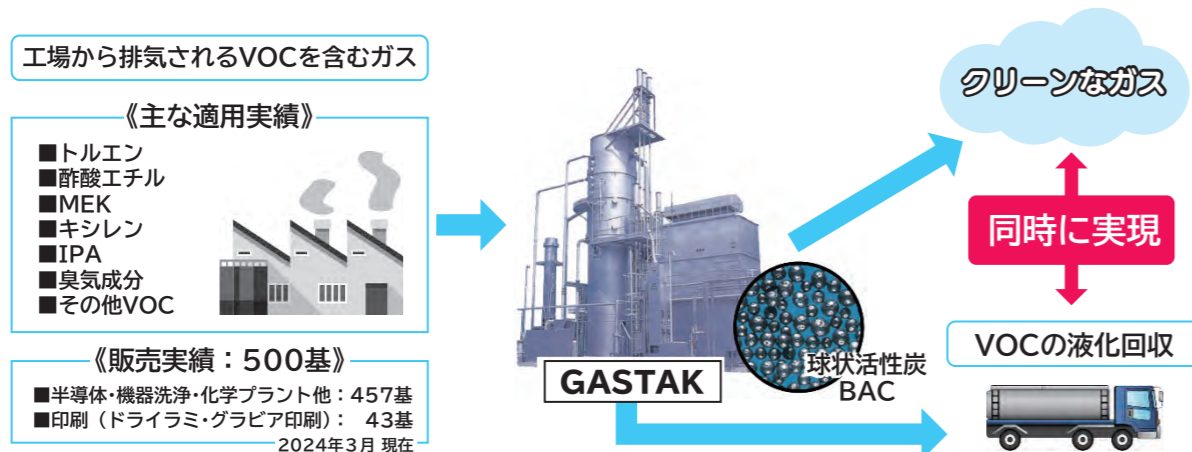
当社の「GASTAK」は、排ガス中に含まれる有機溶剤の回収や、排ガス中の有害・悪臭物質の除去を目的とした画期的な排ガス処理設備です。



GASTAK

GASTAKの概要

GASTAKは、(株)クレハ製球状活性炭(BAC)を吸着材として使用し、工場の排気に含まれる有機溶剤(VOC:揮発性有機化合物)を除去すると同時に、液体の状態で回収します。回収したVOCは高品質であるため、工場の製造工程において再使用(Reuse)したり、機器洗浄や助燃剤などの他用途で再利用(Recycle)することができ、VOCの消費量を削減(Reduce)します。



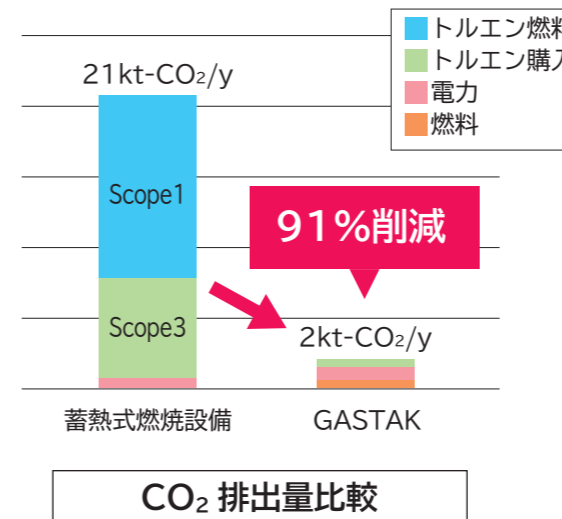
燃焼設備からGASTAKへの置き換えで想定されるCO₂排出量削減の効果

温室効果ガスの国際的な算定基準となっているGHGプロトコル[※]では、サプライチェーンのCO₂排出量をScope-1（事業者自らによる温室効果ガスの直接排出）、Scope-2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）、Scope-3（事業者の活動に関連する他社の排出）に分類しています。

工場の排気に含まれるVOCは多くの場合、燃焼設備により酸化分解され、CO₂として排出されます。この燃焼設備をGASTAKに置き換え、VOCを資源として再使用または再利用することにより、VOC燃焼に伴うCO₂排出量(Scope-1)とVOCの新規購入に伴うCO₂排出量(Scope-3)を大幅に削減することができます。下図に代表的な燃焼設備(蓄熱式燃焼設備)とGASTAKのCO₂排出量の比較を示します。

※GHGプロトコル：温室効果ガス(Greenhouse Gas：GHG)の排出量を算定・報告する際の国際的な基準。

国際的に認められた温室効果ガス排出量の算定と報告の基準として、その利用の促進を図ることを目的に策定された。2011年10月に公表され、現在、温室効果ガス排出量の算定と報告の世界共通基準となっているもの。



前提条件

排ガス風量	1,300 Nm ³ /min
入口トルエン濃度	1,500 ppm
除去率	95 %
年間稼働時間	8,000 h

CO₂排出量

蓄熱式燃焼設備	21 kt-CO ₂ /y
GASTAK	2 kt-CO ₂ /y
削減効果	19 kt-CO ₂ /y

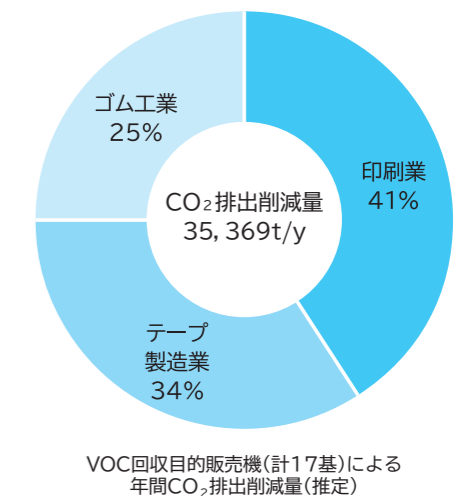
CO₂排出抑制への貢献

排ガス中に含まれるVOCを、処理せずに放出すると大気中で分解され、最終的にはCO₂に変化します。

一方、回収設備でVOCを液化回収すると、排ガス中のVOCをCO₂に変化させることなく再利用も可能となり、排ガス処理に起因するCO₂の発生量を削減することに貢献しています。

当社がこれまでにVOC回収目的で販売した事例を基に、推定される年間CO₂排出削減量をグラフで示します。

当社はこの分野においても、引き続き環境負荷の低減に貢献していきます。





環境技術部では、独自技術を活かした環境関連設備を基本計画から設計・施工・試運転・アフターサービスまで責任ある一貫体制で提供し、環境負荷低減に貢献してまいります。

環境エンジニアリング事業部 環境技術部
エンジニアリング課 副課長 西山 桂太



「安全はすべてに優先する」の基本理念の下、『皆が元気に出社し、痛い思いをすることなく、笑顔で帰宅する』が当たり前で、誰にでも自慢したくなるような職場づくりを目指して、これからも安全衛生活動に取り組んでまいります。

環境安全本部 環境安全部長 佐藤 光

水道原水のカビ臭・異臭味物質の除去

通常の浄水処理で除去することができないカビ臭や異臭味物質が水道原水中に含まれている場合、活性炭の吸着による除去が有効です。

当社独自の急速スラリー形成器を備えた「ドライ粉末活性炭注入設備」であれば、スムーズに活性炭をスラリー化し、効率よく吸着除去できます。

また、粉塵発生や配管詰まりも無く、容易に運転管理が可能です。



ドライ粉末活性炭注入設備

水道原水の適正な水質管理

浄水場が取水する原水において、高いpH値をコントロールする必要がある場合、当社では安全性・取扱性に優れた独自の「炭酸ガス注入設備」を提供することで、浄水場における適正な水質管理の実現を支えています。



炭酸ガス注入設備

水質改善による水道施設の腐食防止

水道事業体向け水酸化カルシウム溶液注入設備「オネストライマー」は全国各地の浄水場に導入実績があります。(総計108機)

水質改善による水道施設(浄水配水設備)の腐食防止や延命化に効果を発揮し、安全でおいしい水の供給に寄与しています。

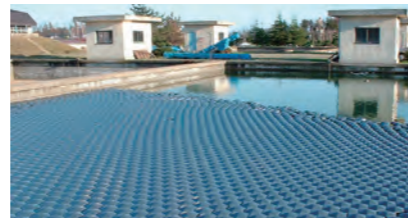


水酸化カルシウム溶液注入設備「オネストライマー」

生態系に配慮した藻類の抑制

河川や湖沼の富栄養化が進むと、湖沼・貯水池では藍藻類によって引き起こされる「アオコ」が問題となります。

「シャロークリーン」は、アオコ発生の必須要素の一つである「光」に着目し、水面の一部を必要最小限で遮光します。これにより水中の生態系を破壊せずに藻類の異常増殖を抑制します。



シャロークリーン

水処理技術と社会貢献について

自然環境において、あらゆる生物と関係を保ちながら循環している水。この大切な水資源が、河川や湖沼などの汚染により深刻な危機にさらされています。

水道管の腐食を防止して赤水の発生を防ぎおいしい水を安定的に送る、水道原水中のカビ臭・異臭味物質の除去によりおいしい水を安定的に送る、汚染された廃水を浄化し美しい河川を維持する、閉鎖性水域汚濁の象徴であるアオコを駆除し美しい湖沼を取り戻すなど、当社は独自の技術で広分野に、潤いのある水環境の提供・維持に引き続き貢献していきます。



安全はすべてに優先する

安全衛生管理方針『安全はすべてに優先する』を実現すべく活動しています。

『安全はすべてに優先する』を安全衛生管理方針に掲げ、その実現に向けて労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)をベースとした事業活動・運用管理を遂行し、「安全文化の構築」や「安全意識の底上げ」に継続して取り組んでいます。

ヒヤリハット活動や全員参加の労働安全衛生視点でのリスクアセスメント等も浸透し、直接部門だけでなく間接部門においても日常的かつ積極的に危険源を察知することに繋がっており、一人ひとりの安全意識が底上げされたものと推察しております。その結果として、2023年度は『休業を伴う業務中の人身災害発生ゼロ』を達成することができました。引き続き、職場の安全状態が確保されるよう働きかけを継続してまいります。

当社は従業員だけでなく、当社に関係する方々の誰一人として安全面・衛生面で痛い思いをすることなく、「笑顔で出社し、笑顔で家に帰る」ことが当たり前実践できるよう、『安全はすべてに優先する』を肝に銘じ、安全衛生活動を進めてまいります。

2023年度の取り組み

- ①安全文化の構築に向けた「安全管理体制の強化」や「安全衛生教育の充実化」
- ②社長・取締役や部課長等による階層別パトロール実施
- ③パトロールによる危険箇所の特定と危険源解消策の実施・報告
- ④リスクアセスメントからリスク低減に取り組み災害防止を推進
- ⑤危険感受性向上を目標とした全員参加型ヒヤリハット活動の推進
- ⑥安全意識高揚に向けた「朝の社内放送」(輪番制)



さまざまな取り組み

総合防災訓練

11月16日にはウエストックいわきで、10月14日にはウエストックかながわで総合防災訓練を行いました。火災が発生したことを想定し、放水作業や負傷者の救助活動の訓練を行いました。



消防訓練の様子(ウエストックいわき)



消防訓練の様子(ウエストックかながわ)

パトロール、ヒヤリハット活動

いわき、かながわともに、場内における災害発生抑制に向けて、管理職による場内パトロールを毎月実施しています。様々な視点から危険箇所・危険状態を発見し、それらに対する安全対策を講じています。またヒヤリハットの摘出をより活発に行い、従業員の危険感受性を向上させるために、ヒヤリハット活動推進委員会による呼びかけやリスクアセスメントを実施しています。

当社従業員による災害発生件数
(派遣社員、パート、アルバイト等を含む)

事故内容	年度	2021	2022	2023
死亡災害		0	0	0
休業災害		1	1	0
不休災害		4	3	0
赤チン災害		1	4	2
重大ヒヤリ事故		2	1	1
合計		8	9	3

休業災害 4日以上休業の災害
不休災害 1～3日休業の災害、休業0日だが継続的に通院の必要なケガ
赤チン災害 休業を伴わない災害(病院で検査・治療(通院不要のみ)した軽度のケガ、応急処置したケガ)
重大ヒヤリ事故 人身災害には至らなかったものの、大変危険な事象が生じたときと会社が判断した事故

ヒヤリハット摘出件数

事故の型	年度	2021	2022	2023
1 墜落・転落		87	107	154
2 転倒		361	395	454
3 激突		150	230	280
4 飛来・落下		101	119	192
5 崩壊・倒壊		14	39	39
6 激突され		42	70	99
7 はさまれ・巻き込まれ		38	53	98
8 切れ・こすれ		49	43	69
9 踏み抜き		7	9	8
10 おぼれ		0	0	1
11 高温・低温の物と接触		69	70	87
12 有害要因との接触		84	118	201
13 感電		6	3	17
14 爆発		0	3	3
15 破裂		0	0	1
16 火災		5	8	25
17 交通災害(道路)		631	731	880
18 交通災害(その他)		9	4	11
19 動作の反動・無理な動作		42	51	52
20 その他		75	80	104
21 分類不可		9	24	55
合計		1,779	2,157	2,830

CSR地域対話集会

11月28日、(株)クレハいわき事業所にて第21回CSR地域対話集会が開催されました。(株)クレハと当社を含むグループ会社が、地域の方々に対しCSR活動について報告しました。



当社の取り組みを紹介しました

災害からの復旧に貢献

9月に発生した令和5年台風13号はいわき市に甚大な被害を与え、約1.1万トンの災害廃棄物が発生しました。当社は市より委託を受けた(一社)福島県産業資源循環協会の一員として災害廃棄物の管理業務を担い、復旧に貢献しました(処理は2024年5月に完了しました)。



仮置き場の様子



廃棄物の搬入を誘導する従業員

コンプライアンスや安全衛生に関する従業員教育

当社では年間を通して従業員を対象とした外部講師による研修や講話を実施し、従業員の知識の習得やコンプライアンス意識の向上に努めています。

- ハラスメント研修会(8/17・29)
- 産業医講話(10/26)
- 交通安全講話(12/15)
- 労働災害に関する講演(1/18)
- 下請法に関する勉強会(3/12)

さまざまな取り組み

川崎臨海部しごとスタイルプログラム

川崎市内の高校生と企業の交流を図る「川崎臨海部しごとスタイルプログラム」に参加しました。12月14日、プログラムの一環で川崎市立川崎総合科学高等学校の学生がウェステックかながわを見学を訪れ、焼却炉や排熱発電の仕組みについて理解を深めました。



見学の様子

グリーン電力の購入

4月より、ウェステックかながわでは購入電力量の100%を再生可能エネルギーに切り替えました。これにより化石燃料由来の電力使用時に対し、年間300トンのCO₂削減となります。



寄付活動

8月からペットボトルキャップの回収活動を始めました。キャップ2kgで1人分のポリオワクチンを購入することができ、開発途上国の子供たちの支援に繋がります。回収した78kgのキャップ(ポリオワクチン39人分)を2024年春に福島県立磐城農業高等学校インターアクト部に寄託しました。今後同校を通じて寄付される予定です。



磐城農業高校に寄託しました

ひめゆり総業の取り組み

当社グループ会社であるひめゆり総業株式会社は1968年に創業し、いわき市で管理型最終処分場の運営管理を行っている会社です。環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を2009年12月に取得し、登録事業者として継続的に環境を改善するための取り組みを行っています。



平太郎第三期処分場

ひめゆり監査委員会



監査委員会の様子(10月)

ひめゆり総業では、近隣住民代表の方々に処分場の維持管理状況を監査していただく「ひめゆり監査委員会」を2000年3月より年に2回行っています。2023年度は5月20日と10月27日に開催しました。

総合防災訓練

10月31日、ひめゆり総業にて総合防災訓練を行いました。運搬中の燃え殻が公道上で漏洩したことを想定し、回収対応の訓練を行いました。



回収訓練の様子

小学校に製氷機寄贈



安島社長(左)と遠藤校長(右)

9月の台風13号の影響により発生した線状降水帯は、いわき市に甚大な大雨の被害をもたらしました。いわき市立宮小学校の校舎には土砂が流れ込み、子供たちの熱中症予防やけがの処置に欠かせない製氷機が使用できなくなっていました。この状況を知り、ひめゆり総業は2月11日、製氷機を寄贈しいわき市より感謝状を贈呈されました。

会社概要

商号	株式会社クレハ環境
本社所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町四反田30番地
主な事業所	ウェステックいわき、ウェステックかながわ
設立	1971年12月1日
資本金	2億4,000万円
従業員数	379名(2024年3月末)
主要な事業	産業廃棄物の収集運搬・処分、環境修復事業 建設業(環境エンジニアリング)、発電事業他

クレハグループ レスポンシブル・ケア方針

- 1 国際規則や法令を守ります
- 2 地球環境に配慮し、安全な操業をします
- 3 安全な製品を社会に提供します
- 4 環境・安全の情報を管理し、役立てます
- 5 社会とのより良い関係を築きます

レスポンシブル・ケア(RC)とは…

化学物質を製造または取り扱う事業者が自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保する改善活動を継続的に行い、社会との対話・コミュニケーションを行うことです。
クレハグループは1995年にRC活動の実施を社会に対して宣言しました。

■クレハグループRC協議会構成図



沿革

1971年	12月	呉羽梱包株式会社設立
1975年	10月	社名を呉羽業務株式会社に改める
1977年	3月	福島県産業廃棄物収集・運搬業・処分業許可取得
1984年	7月	社名を呉羽環境株式会社に改める
1986年	10月	7号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1993年	5月	8号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1998年	3月	ISO14001認証取得
1998年	4月	7号焼却炉 自社開発により更新
2006年	4月	社名を株式会社クレハ環境に改める
2006年	6月	資本金を2億4000万円に増資
2010年	4月	かながわ事業所を開設
2011年	4月	川崎物流センターを開設
2012年	4月	環境エンジニアリング事業を開始
2014年	4月	ウェステックパークをウェステックいわきに、 かながわ事業所をウェステックかながわに改める
2017年	3月	ISO9001認証取得
2019年	4月	ひめゆり総業株式会社を完全子会社化 W.I.Lセンター開設 ISO45001認証取得
2021年	12月	創立50周年を迎える

営業に関するお問い合わせ

産業廃棄物に関するお問い合わせ

営業本部 TEL 0246-63-1331
FAX 0246-63-1332

環境エンジニアリングに関するお問い合わせ

環境営業部 TEL 0246-63-1358
FAX 0246-63-1359

本書に関するお問い合わせ

総務部 TEL 0246-63-1231
FAX 0246-63-1232

本社(福島県いわき市)



いこいの広場



展示コーナー



地域交流ホール

ウェステックかながわ(神奈川県川崎市)



管理棟ホール



見学者通路(4階)

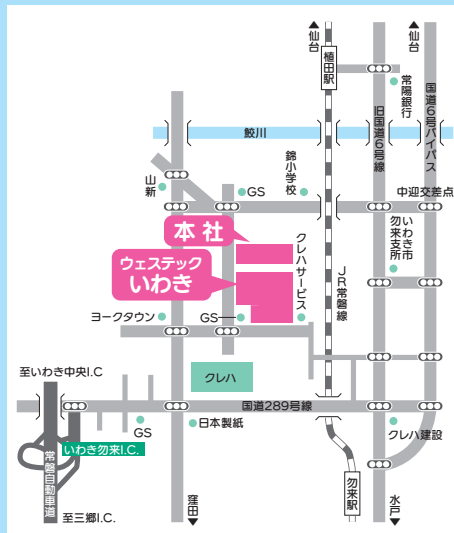


工場棟(1階)

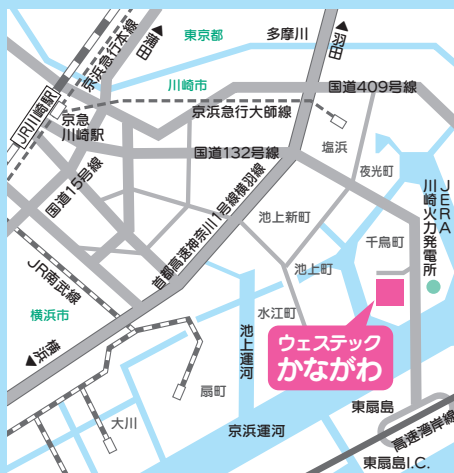
本環境報告書2024は、ウェブサイトでも公開しております。
<https://www.kurekan.co.jp/information/>



本 社
 所在地：福島県いわき市錦町四反田30番地
ウェステックいわき
 所在地：福島県いわき市錦町落合136番1号



ウェステックかながわ
 所在地：神奈川県川崎市川崎区千鳥町6番1号



 **株式会社クレハ環境**

福島県いわき市錦町四反田30番地
<https://www.kurekan.co.jp/>

◆お問い合わせ先◆

総務部

TEL 0246-63-1231

FAX 0246-63-1232

2024年10月発行

Fontworks
UDFont

読みやすい、フォント
 ワークスUD (ユニバー
 サルデザイン)フォントを
 本文に使用しています。